

公益財団法人宗像ユリックス
令和3年度事業計画

令和3年 3月

公益財団法人宗像ユリックス

< 目 次 >

1. はじめに	3
2. 令和2年度管理運営の基本方針及び事業について	
(1) 基本方針	4
(2) 事業運営	
① 公1、収1「公園施設等の管理運営事業（貸館事業）」	5～6
② 公1、収1「公園施設等の管理運営事業（施設管理）」	7
③ 収2「利用者サービス事業」	8
④ 公2「文化芸術振興事業（文化事業）」	9～12
⑤ 公2「文化芸術振興事業（文化講座運営事業）」	13
⑥ 公2「文化芸術振興事業（プラネタリウム運営事業）」	14～15
⑦ 公3「健康増進事業（健康増進施設管理運営事業）」	16～17
⑧ 公3「健康増進事業（健康増進企画・体験事業）」	18～19
⑨ 公3「健康増進事業（テニスコート・パットゴルフ）」	20～21
(3) 法人運営	
① 組織・運営体制	22
② 財政運営	22

令和3年度事業計画

はじめに

臨時休館や営業時間の短縮。このようなことが起こるとは、いったい誰が想像していたでしょうか。令和2年度の幕開けは、新型コロナという未知のウイルスの感染拡大防止のため、宗像ユリックス開館以来初めてとなる臨時休館からのスタートでした。令和3年度に33年目を迎える宗像ユリックスですが、新型コロナウイルスの影響は未だ収束が見通せない状況です。

加えて、市からの指定管理料の削減や臨時休館による収益の減少等、当財団の財政状況も非常に厳しいものとなっています。あらゆる点において、従前のままでは財団の運営そのものさえ危ぶまれる事態になりかねません。そのような危機感を職員全員が共有し、時代の流れに適した変化が今、求められています。

その上で、宗像ユリックスは、文化芸術や健康レクリエーション、生涯学習の広域的な拠点としての使命を果たしていかなければなりません。令和3年度は、指定管理料の削減や新型コロナウイルス感染拡大防止のための様々な制約の中での運営が求められます。それらのことを踏まえ、文化事業では、幅広い世代のニーズに応える多様な事業の展開や、地域に根差した新しい事業等を模索、実施してまいります。健康レクリエーション事業では、新たにアクティブレストの活動をすすめ、総合的な健康の維持向上に取り組んでまいります。また、生涯学習では、子育て世代へのアプローチや新たな生活様式を念頭に、新しい講座を開拓してまいります。いずれも、感染防止対策を徹底し、アフターコロナを見据え、安全安心な感動の提供に取り組んでまいります。

また、安全安心な施設運営を継続していくために、職員の安定的な雇用に努めるとともに、施設の老朽化に伴う補修や施設の保全、美化、植栽管理を適切に行います。緊急を要する改修については、設置者である市と速やかに協議を行い、適切に対応してまいります。

宗像市文化芸術振興条例には、文化芸術について、「市民等が心豊かに生活をするための糧となり、ひいては市民等相互の連帯感をつくり出し、共に生きる社会の礎となる」とあります。当財団としても、このような考えを踏まえ、「文化芸術振興によるまちづくり」に寄与するため、積極的に多様な事業展開を図ってまいらねばなりません。

令和3年度は、次期指定管理者選定の年です。当財団の役割り等をもう一度見つめなおし、市民ニーズを的確に把握し、中長期的な視野を持ちつつ、柔軟な発想で市に対して新たな提案ができるように、職員一同取り組んでまいりますので、これからも変わらぬご指導、ご協力をお願いいたします。

(1) 基本方針

公益財団法人宗像ユリックスは、「宗像市文化芸術のまちづくり10年ビジョン」を縦糸、「宗像市文化芸術振興条例」を横糸に、そして市や市民、利用者、各種団体との連携や協働から生じるエネルギーを動力源として、機織り機「宗像ユリックス」を使って、人々の生活に潤いと心に豊かさをもたらす文化芸術の機を織り上げていきます。

① 音楽のあふれるまちづくりに向けた活動

地域の元気ある未来づくりに寄与するため、幼少・学生など若い世代に重点をおき、アウトリーチ事業などの子どもの発育段階に資するための鑑賞・体験事業を計画的に実施します。

② 文化芸術の振興事業の推進と関係機関との連携

宗像ミアーレ音楽祭、アウトリーチ事業、健康増進事業など文化芸術、歴史、科学、スポーツ及びレクリエーションに関する様々な事業をコミュニティ運営協議会や大学、教育機関など各種団体との関係を再構築し、連携してまいります。

③ 健全財政への取り組み

収入改善のため、各施設の利用率、コンサートのチケット販売率の向上を目指すとともに収入に応じた経費の適正化を図ります。大きく変化した社会情勢に則した、新たな事業収入の開発や事業規模、内容の見直しに取り組み、収支改善に取り組みます。

④ 「安全・安心」の宗像ユリックスを目指して

アンケートの結果や利用者の意向と、毎日の点検の励行により、利用者が安全に、安心して利用できる施設として、老朽化対策や維持管理のための改善を市と連携して行っていきます。

(2) 事業運営

① 公1、収1「公園施設等の管理運営事業（貸館事業）」

新型コロナウイルスによる利用者と利用料金の減少を回復させるとともに、感染症対策の両立を図っていく。市内はもとより、近隣市の企業や学校、プロモーターなどへの広報活動を行い、新たな顧客を創造する。また、ニーズを的確に捉えた新たな施策立案と施設利用状況の分析を行ない、定期利用者の確保、利用者数・利用料金の増加を目指す。さらに、利便性向上を目的に、施設予約システム更新、キャッシュレスシステム導入を検討する。

【利用者数増への取り組み】

近隣施設の改修に伴い、イベント開催会場が不足する機会を捉え、集客力のある大型イベントの誘致や、定期利用者の獲得を目指して広報活動を行う。「スタジオ当日受付の半額割引」、「舞台上で気軽にピアノレッスン」など、定着した施策を継続して提供していくとともに、館内レストラン、ワゴン販売店舗との連携を図り、利便性を向上させ、施設稼働率向上の新たな施策立案及び実施を目指す。

【職員の接客対応スキル向上】

窓口での接客・電話対応レベル向上を目指し、職員の積極的な研修への参加を行なう。

【にっこり文化講座事業による施設利用率維持向上】

にっこり文化講座事業による積極的な利用率向上、館内活性化を目指す。

【貸出備品の精査と改善】

「新しい生活様式」に根差したテレワークやイベント配信に対応できる環境整備を行うとともに、要望が多い備品の新たな整備や、劣化した備品の改修により、利便性向上を図る。

【学習室の運営】

宗像市に代わって当財団が利用料金を負担し、学習室の運営を継続してきたが、今後は利用者負担やサービス終了も視野に入れ検討を行う。

以上の施策を踏まえ、今後も利用者ニーズに沿った施設運営とサービスの導入を続けながら、「利用料金収入」、「施設稼働率」、「利用者数」の3大指標の向上を目指す。

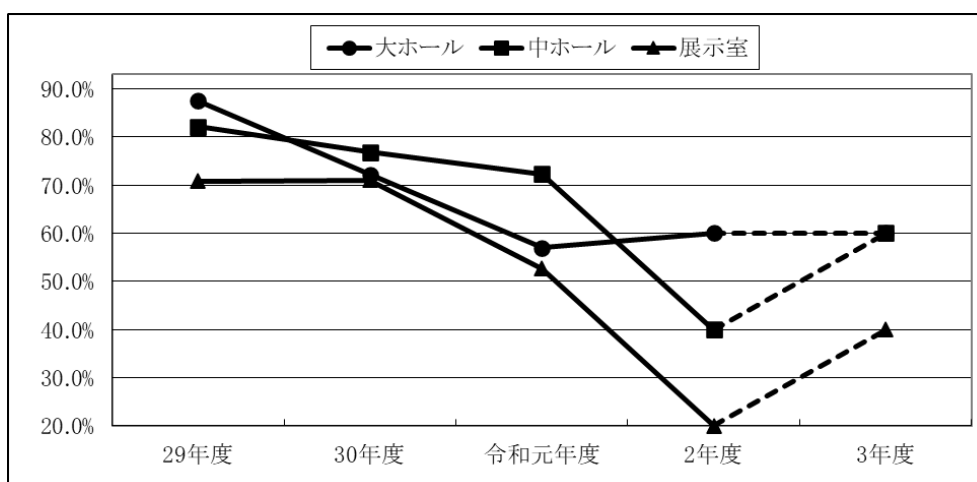
【 数値目標 】

・ 3大施設利用率の推移

※2年度は見込値、3年度は目標値

	29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度
3大施設利用率	80.4%	73.4%	60.7%	40.0%	53.3%
大ホール	87.5%	72.2%	57.0%	60.0%	60.0%
中ホール	82.1%	76.9%	72.3%	40.0%	60.0%
展示室	70.8%	71.0%	52.7%	20.0%	40.0%

※利用率は、貸出可能日数のうち利用された日数の割合



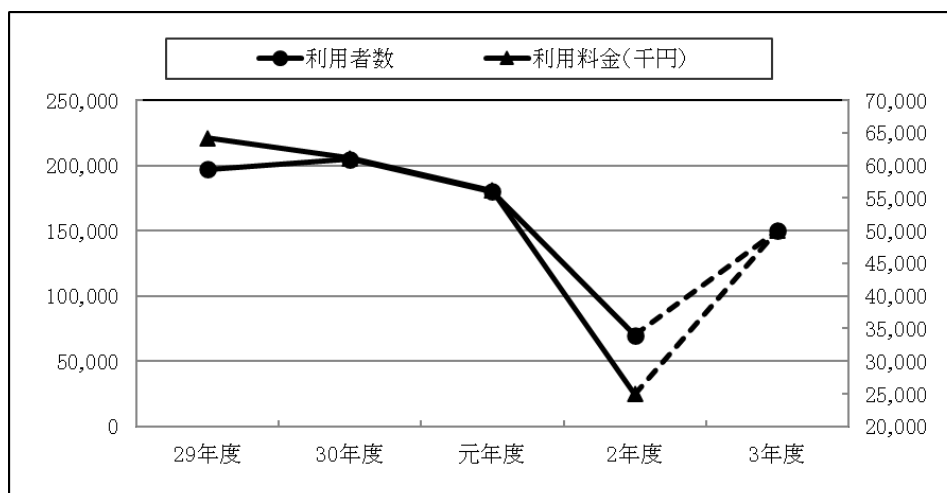
・ 本館利用者数、利用料金の推移

※2年度は見込値、3年度は目標値

	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度	3年度
利用者数	197,046	204,716	179,906	70,000	150,000
対前年比	82.5%	103.9%	87.9%	38.9%	214.3%
利用料金(千円)	64,185	61,105	56,143	24,945	50,000
対前年比	102.0%	95.2%	91.9%	44.4%	200.4%

※利用者数：本館一般施設利用者（図書館を除く）と視察者の合計人数

※利用料金：本館一般施設の利用料金収入額



② 公1、収1「公園施設等の管理運営事業（施設管理）」

令和2年度は、老朽化している雨水配管をはじめとした施設の改修を行なった。また、本館東側エリアで、野ばら保育園ユリックス分園の開設準備のための工事が行われた。令和3年度はアクアドームの屋外庇の修繕を行なう。施工にあたっては、利用者とのトラブルや事故が起こらないよう、市の関係部署と連携し、調整を行いながら進めていく。

施設を安全快適にご利用いただくため、日々の不具合については、迅速に対応し、施設の長寿命化やユリックス来場者の事故ゼロを目指す。新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のための環境整備も継続して行っていく。

公園内の植栽は着実に管理されており、今年度も快適な環境を維持管理していく。南ゾーン芝生広場の芝生再生のためのランニング規制は、引き続き1月から5月に実施する。

安全管理として、各設備の法定点検の徹底、防災訓練の実施により、不特定多数の来場者をお迎えする施設に勤務する、全職員の意識の維持向上を図る。

【 修繕状況 】

※令和2年度は見込値

	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
修繕発生件数 (件)	122	109	111	141	100
対前年度比	-	89.3%	101.8%	127.0%	70.9%
修繕費(円)	21,137,981	19,063,810	18,772,583	21,846,584	17,000,000
対前年度比	-	90.2%	98.5%	116.4%	77.8%

③ 収2 「利用者サービス事業」

【自動販売機設置事業】

利用者に飲食物の便宜を供するために公園内の33ヶ所（うち5ヶ所は東京オリンピック2020聖火リレー記念自動販売機）に自動販売機を設置しており、売上額の15～35%を手数料収入としている。来館された多数のお客様にご利用いただいている。

定期的な機器の更新や設置場所の見直しを行うことで、利用者へのサービス提供を行い、結果として手数料収入の増加と利用者の利便性の向上を行う。今年度は、令和4年度の契約更新時に向けた大規模更新計画を策定し、手数料収入の増加を目指す。

【物品等販売事業】

本館インフォメーション窓口において、傘、切手、収入印紙、テニスボールなどの販売事業を行なっている。一定の需要があるため、継続して販売を行っていきと共に新たなサービスを模索し、より一層の利用者サービスの向上と収入の確保に努める。

また、弁当等の注文代行サービスを積極的にお勧めし、手数料収入の増加を目指していく。併せて、館内レストラン事業者との連携を推進していく。

芝生広場等、屋外でのニーズを調査し、キッチンカーなどの新しい販売事業を模索する。

④ 公2「文化芸術振興事業（文化事業）」

第4期指定管理期間は、「普及・参加・育成型事業重視」の方向性を堅持しつつ、宗像市文化芸術振興条例に定められた理念である「文化芸術に親しめる環境整備」、「文化芸術のための人づくり」、「文化芸術を活かしたまちづくり」の実現に向けた具体的な取り組みを、宗像市と協働し推進してきた。

しかし、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、宗像ミアーレ音楽祭も含めた市民参画イベントや多くの主催事業に加え、小・中学校、病院、福祉施設への訪問等も延期、中止となった。

第4期指定管理の最終年度となる令和3年度は、感染症対策を徹底し、新たに親子向けダンスワークショップや日本舞踊の公演など、市民ニーズを把握し、多様なラインナップを用意するのに加え、テレビ局やイベンター等との大型事業共催を模索する。

【鑑賞事業】

<多様な事業の展開>

第一線で活躍し、家業である日本舞踊の後継者である男性日本舞踊家12人による、日本舞踊家集団「弧の会」公演を実施。市山流、泉流、猿若流、西川流、花柳流、藤間流、若柳流の各流を背負う同世代のメンバーが、流儀を超えて新しい日本舞踊の形を創造する。地域創造の助成金を活用し、西日本ブロックの公共ホール6館が連携し、創客、集客方法の共有化を図る。

<地域に根差した新しい事業>

新型コロナウイルス感染症の影響で、自宅に引きこもり気味であるシニア層に対してのフォローとして、平日午前中に、コロナ対策に万全を期し「低料金で気軽にホールで生の音楽に触れ合う機会～モーニングコンサート～」を用意し、「人生のいきがい」となる環境を創造する。

【ミアーレ音楽祭、4大文化事業（むなかた文化祭、こども芸術祭、むなかた芸術祭、むなかた吹奏楽祭）】

令和2年度は、宗像ミアーレ音楽祭、4大文化事業ともに、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。令和3年度は、感染症の収束状況を鑑みて、開催について宗像市と協議する。宗像ミアーレ音楽祭は、事業内容に新規性・独立性を加えるため、9月～12月にかけて分散して開催し、多くの顧客に支持される音楽祭になるよう再構築していく。今まで、核としての公演を行っていた「九響と散策する名曲の小径」は開催せず、「ミアーレジュニア合唱団」や「ミアーレ500人コンサート」などの市民参画の公演を中心に据えて開催する。

【アウトリーチ事業】

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、小・中学校、病院、福祉施設に訪問することができなかった。令和3年度は、学校や各施設とのつながりを再構築し、音楽だけではなく、ダンスや、日本舞踊など新たなジャンルのアウトリーチ・ワークショップを提供し、多くの市民が、芸術に触れ合う機会を創出し、財団の存在意義をさらに高めていく。

【若手芸術家の育成支援】

＜吹奏楽活性化事業＞

宗像ユリックスが積極的に推進している「吹奏楽活性化事業」。令和2年度、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、ユリックス ジュニアブラスおよび各中学校吹奏楽部の部員数が減少した。令和3年度は、幼児、小学校低学年が初めて本物の楽器と触れ合うことを目的とする、「楽器体験」を皮切りに、「ユリックス ジュニアブラス」、「中学校吹奏楽部クリニック」、さらに「ミアレ500人コンサート」まで、年代を追った一連の流れを展開し、事業の活性化を図っていく。

【市民による発表の場の提供】

＜ロビーライブの継続的開催＞

毎月の名画シアターにあわせ、ホワイエにて、アマチュア演奏者の発表の場となる「ロビーライブ」を開催するとともに、新たな他の機会での開催を模索する。

【子どもたちが文化芸術を体験する場の提供】

＜スマイルキッズプログラム＞

次代を担う子どもたちに対し、文化芸術を体験する場を積極的に提供する。直に触れることで生まれる感動や喜びを通して、豊かな感受性を育むことを目的とし、宗像市が都市ブランドとして目指す、「子どもがすくすく育つまち」・「子どもにやさしいまち」の実現に貢献し、公共ホールとしての役割を果たしていく。また、宗像市・教育委員会・各地区コミュニティ運営協議会等との連携関係を深めながら、事業を実施する。

～スマイルキッズプログラム対象事業～

- ・いきいき出前コンサート(幼稚園・保育所・小学校・中学校対象など)
- ・すくすくコンサート(アウトリーチ事業+ホール事業)
- ・ユリックス ジュニアブラス
- ・九管ポップス ファミリーコンサート 他

【「ユリックス スマイルクラブ」運営】

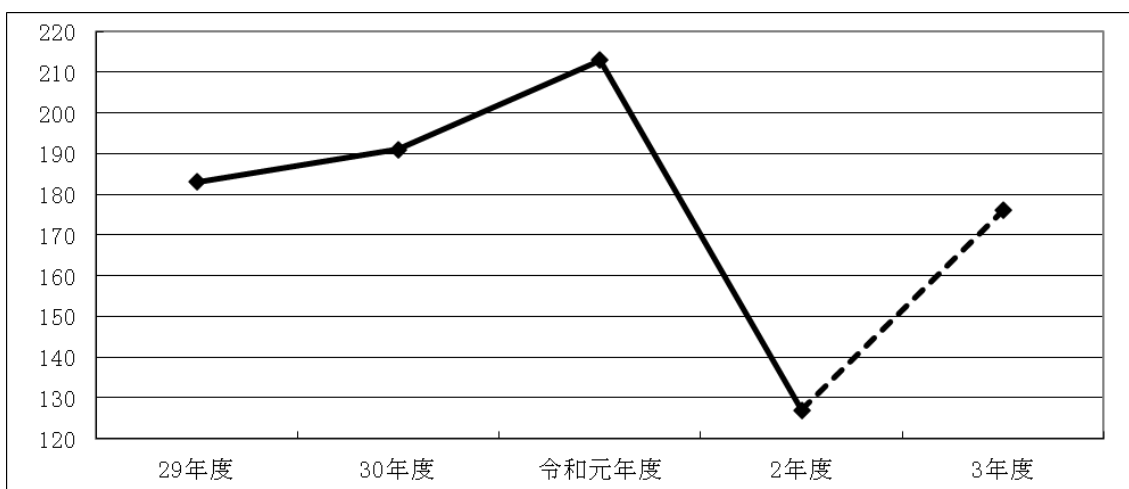
新型コロナウイルス感染症の影響により、会員数が大幅に減少している状況にある。宗像ユリックスの会員制度である「ユリックス スマイルクラブ」に加入することによる、お得な会員価格やポイント付与などのメリットを再度、広く告知し、会員数の回復を目指す。

【 数値目標 】

・事業本数（ジャンル別）の推移

※令和2年度は見込値、3年度は予定値

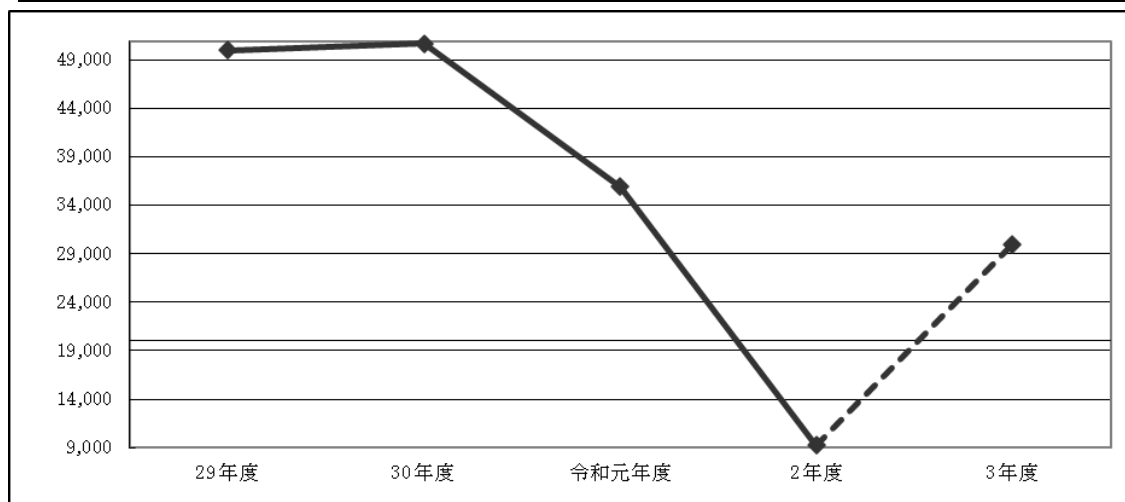
事業ジャンル	29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度
音楽（クラシック）	12	15	12	4	2
音楽（クラシック以外）	13	12	8	4	14
映画	11	12	12	8	12
演劇・古典芸能・舞踊	4	3	3	9	6
美術	4	3	1	0	1
アウトリーチ	85	87	76	36	60
その他（ワークショップ 他）	54	59	101	66	81
合計	183	191	213	127	176



・文化事業・入場者数の推移

※令和2年度は見込値、3年度は目標値

	29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度
入場者数 (人)	50,037	50,713	35,940	9,255	30,000
対前年比	94.4%	101.4%	70.8%	25.8%	324.1%
対前年人数	△ 2,987	676	△14,773	△26,685	20,745

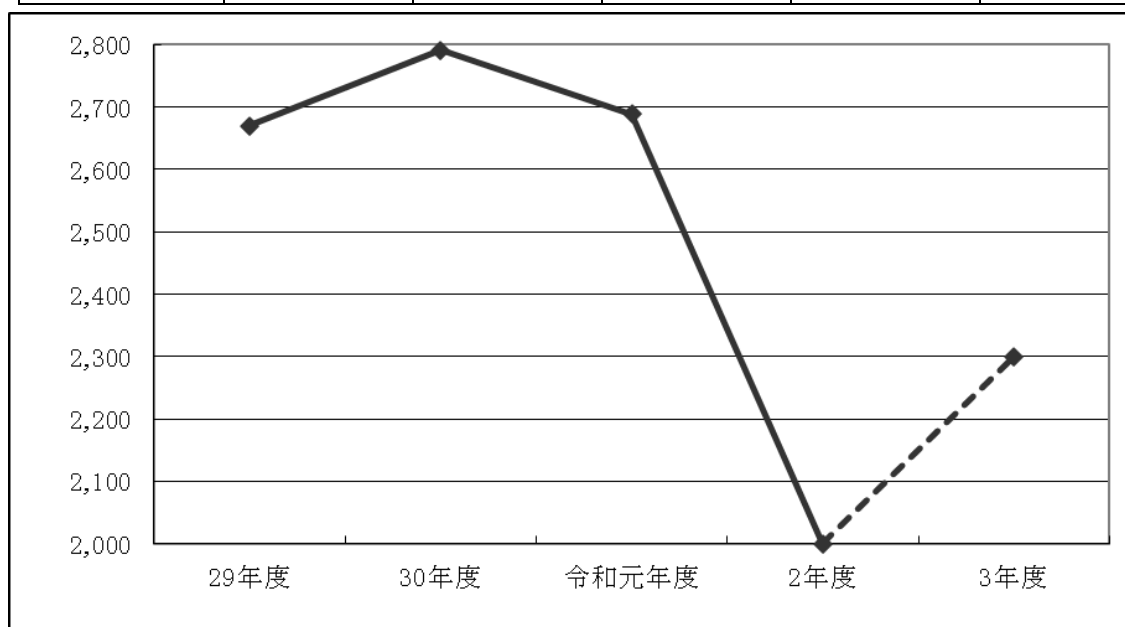


※令和元年度は台風による、宗像ミアレー音楽祭中止の影響、令和2年度は新型コロナウイルス感染症による自粛、事業中止・延期の影響により、大きく減少

・ユリックス スマイルクラブ会員数の推移

※令和2年度は見込値、3年度は目標値

	29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度
会員数 (人)	2,670	2,791	2,689	2,000	2,300
対前年比	94.0%	104.5%	96.3%	74.4%	115%
対前年人数	△ 169	121	△102	△689	300



⑤ 公2「文化芸術振興事業（文化講座運営事業）」

「にっこり文化講座」は、平成30年度よりスタートし、3年が経過。順調に受講者数を増やしてきていたが、感染症の影響により令和2年度は初めての減少となった。4年目となる令和3年度は受講生延べ9,000人を目標に、運営や広報活動を行っていく。講座内容は、宗像ユリックスの特徴を活かした音楽、絵画、文学やスポーツの分野を軸に、シニア層に人気の教養を高めるための文学・歴史などの講座や、子育て世代へ向けた講座を実施する。

【特徴ある講座の創出】

「音楽に親しむ場を提供し、独唱、合唱、器楽演奏など、誰でも長期間楽しめる講座の充実を図る」という方針を踏襲した上で、「新しい生活様式」に合わせて、大空間のイベントホールや屋外の芝生広場を使ったスポーツ、ヨガなどの講座や、来館不要なリモート講座の開設を検討する。また、宗像市スポーツサポートセンターやグローバルアリーナとの連携も模索する。

【子どもたち・子育て世代へのアプローチ】

新たな顧客層として子育て世代の受講を促す。小学校に導入されるプログラミング教育向け講座の新規開設や短期講座の夏休み工作教室、無料託児設定付き講座などを実施する。

【 数値目標 】

・受講者数、講座数、受講料収入の推移 ※令和2年度は見込値、3年度は目標値

	30年度	令和元年度	2年度	3年度
年間延べ受講者数 (人)	7,688	9,440	5,700	9,000
対前年比	—	122.8%	60.4%	157.9%
対前年人数	—	1,752	△3,740	3,300
常設講座数	85	96	75	100
年間延べ講座数	1,020	1,158	800	1,200
受講料収入(円)	27,710,079	31,408,804	23,000,000	32,000,000

⑥ 公2「文化芸術振興事業（プラネタリウム運営事業）」

来場者のニーズを先取りしたプログラムの提供、天体観望会や小学生向けの講座「ほしぞら友の会」の実施、ボランティアの活動支援など、地域に根差した活動などを継続していく。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、休館や入場者数の制限、外出自粛の影響を受け、入場者数が大きく減ることとなった。そのような状況の中でも、新たな試みとして実施したドームイベント「QUEEN -HEAVEN-」は満席の回が続き、大変好評であった。基本となるこれまでのプログラムを維持しつつも、こうした試みも実施しながら新規顧客を開拓していく。また、現在の機器が寿命を迎えており、安定した運営のため計画的な機器更新を宗像市に提案していく。

【来場者に合わせたプログラムの提供】

現在、来場者の年齢層などに合わせたプログラム提供を継続し、専門解説員による全編生解説を実施することで、近隣他館との差別化ができ独自の魅力となっている。しかし、社会情勢の変化から、消費低迷が進みリピート率が低下している。令和3年度も、ドームイベントなどの新たなジャンルのプログラムを模索し、新規顧客の開拓と継続した入場者増を目指す。

こども向けプログラムは、来場者がいつ来ても違った内容を楽しめる取り組みが功を奏し、安定した集客を保っている。人気が安定しているため、今後もこの方針を続けていく。

リラクセーションプログラムは、人気の高い美しい「オーロラ」の映像を使った演出によって、来場者数増を目指していきたい。

おとな向けプログラムでは、「南極から見た星空」や「流れ星」、「木星」といったテーマの他、宗像市のプラネタリウムという特性を活かし世界遺産に登録された沖ノ島から古代人が見上げた星空について紹介するプログラム「古代人が見た星空」を制作し実施する。

また、昨年の「QUEEN -HEAVEN-」に続くドームイベントとして、日本の小惑星探査機はやぶさ2を取り上げた「HAYABUSA2～REBORN 帰還バージョン」という映像作品の上映を実施する。主に小・中学生をターゲットに広報、周知を行い、このプログラムを、プラネタリウムに足を運ぶきっかけとして選んでいただけるように誘導していく。

【団体利用の促進】

学校団体利用は、児童・生徒にとって貴重なプラネタリウム体験の機会であり、市内学校による利用が定着している。また、保育所・幼稚園や、放課後等デイサービスによる団体利用が好調である。今後も、こうしたニーズに対応し、柔軟に団体予約を受け入れていきたい。

【天文普及に関わる事業】

天文普及に関する事業として、毎年春から秋の時期に計5回実施している観望会「ほしぞらウォッチング」の他、通年で月1回の小学生対象の講座「ほしぞら友の会」を行っている。これらの天文普及に関する事業を通じて、科学に対して興味・関心を持ち、正しい科学知識、活用能力を持つ子どもたちを育み、将来を担う人材育成の場としていく。

【ほしぞらスタッフ（ボランティア）による天文普及活動の支援】

現在、ほしぞらスタッフは、市内外より41人の登録がある。観望会や各種イベントの企画・実施など幅広く活動していただいている。今後、ボランティア自身が楽しめるような活動のあり方について引き続き検討していく。

【広報活動の工夫】

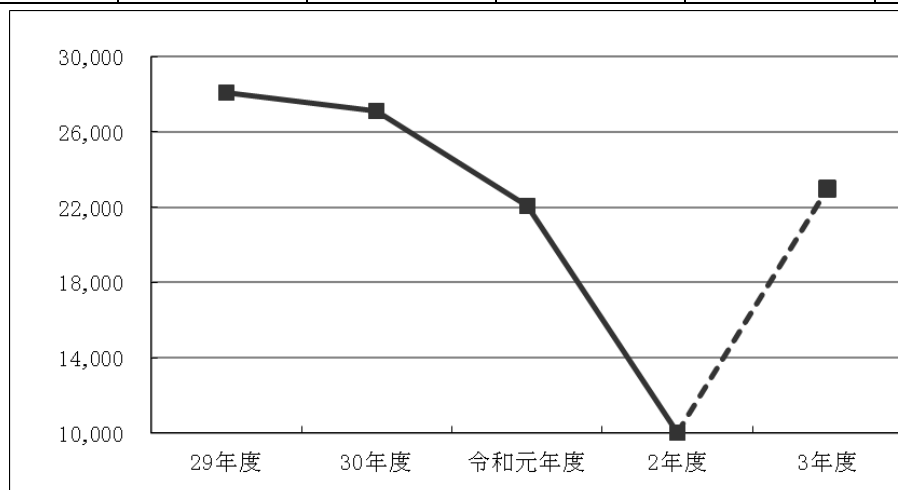
学校や保育所・幼稚園、放課後等デイサービスなどの団体に向けて、案内書の送付を続けている。さらに、市内小学校の利用者（児童）には招待券を配布し、その後の来場に繋げる工夫を行っている。また、個人来場者に対しては案内送付など、入場者数増に向けた広報活動を継続してきた。さらに近年は、FacebookやTwitterなど、SNSの口コミを利用した広報や広告も一定数の効果をあげていることから、こうした手法を積極的に活用していく。

【 数値目標 】

・プラネタリウム入場者数の推移

※令和2年度は見込値、3年度は目標値

	29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度
入場者数 (人)	28,119	27,119	22,039	10,000	23,000
対前年比	87.3%	96.4%	81.3%	45.4%	230.0%
対前年人数	△4,106	△1,000	△5,080	△12,039	13,000



⑦ 公3「健康増進事業（健康増進施設管理運営事業）」

【アクアドーム】

国や宗像市における、健康・スポーツに関する計画等の趣旨・基本理念等と合致することを基本に、利用者の「総合的健康の維持向上」を行なう。

健康づくりに関する情報収集や情報発信は、ホームページやアクアドーム新聞等広報媒体によって行っていく。ついては、主な事業であるウエルネスクラブ及びスイミングスクールの新規受講者獲得のために、ネーミング等の変更を考えていきたい。更に、アクアドームで行われるイベント情報や健康情報を簡単にまとめた「月刊アクアドーム新聞」を市内各コミュニティセンターに配布する。

市の施設として、特定保健指導や介護予防事業、スポーツ推進計画など、宗像市の健康づくり事業を積極的に実施する。特定保健指導の積極的支援、動機づけ支援、特定健診結果説明会での運動指導、特定保健指導対象者に指導参加を促す電話勧奨を行う。スポーツサポートセンター及び宗像市スポーツ協会との連携を強化していく。

宗像市スポーツ推進計画にある「ノルディックウォーク」を広める活動の支援を行なう。

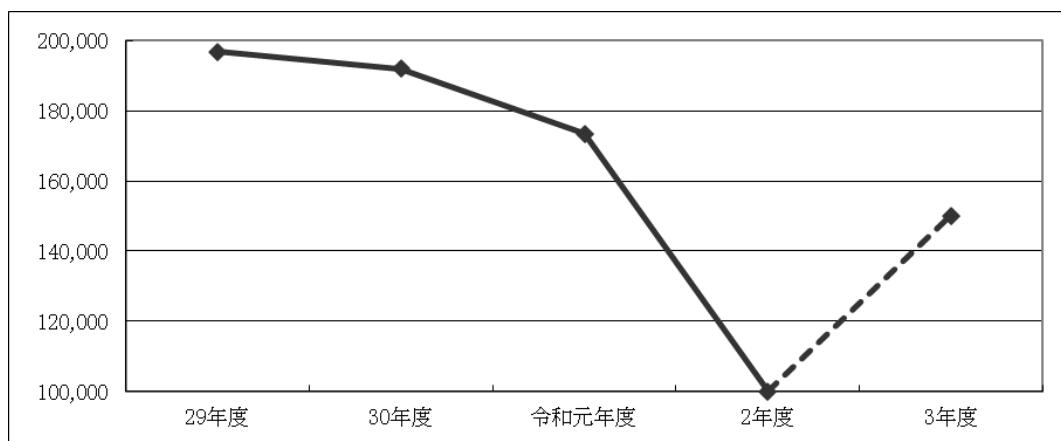
宗像市国保医療課の宗像市運動施設利用料金助成事業の枠をさらに広げ、健レク事業でも活用し、施設利用者増を目指す。

【 数値目標 】

アクアドーム入場者数の推移

※令和2年度は見込値、3年度は目標値

	29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度
入場者数（人）	196,902	191,925	173,503	100,000	150,000
対前年比	96.8%	97.5%	90.4%	57.6%	150%



【ゆ〜ゆ〜プール】

プールサイド等の利用環境が改善され、より快適なレジャープールとなっている。実施可否も含め、宗像市と協議の上、感染症対策を行いながら、幼児・小学校低学年が楽しく安全に遊べるサービスを実施していく。

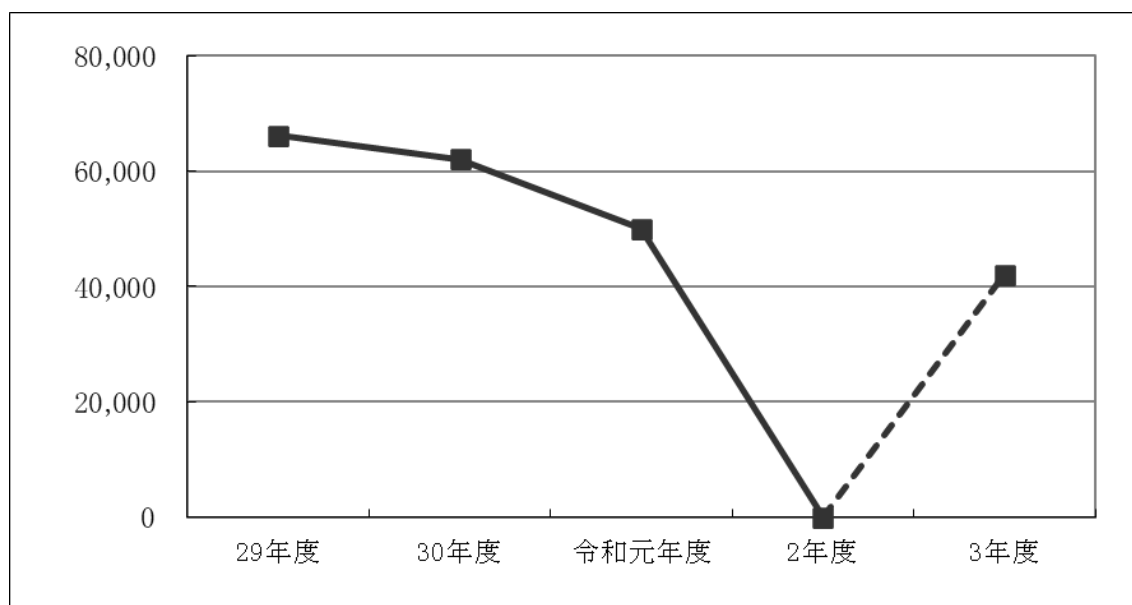
【 数値目標 】

ゆ〜ゆ〜プール利用者数の推移

※3年度は目標値

	29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度
入場者数(人)	66,159	62,091	50,003	中止	42,000
対前年比	97.2%	93.9%	80.5%	—	*84%
対前年人数	△1,930	△4,068	△12,088	—	*△8,003

*2年度中止のため令和元年との比較による比率、人数



⑧ 公3「健康増進事業（健康増進企画・体験事業）」

様々なスポーツイベントを開催することにより、人々の心身の健康づくりと活力のある地域づくりに貢献することを目的とする。

【ウエルネスクラブ】

夜間利用者であるナイト会員の利用を促進することを目的に、令和3年度は夜区分にスタジオレッスンを1レッスン増設し、週4レッスン開催予定。また、スタジオレッスンが行われていない時間帯に、ウエルネスクラブ会員限定で、スタジオAをストレッチ等のスペースとして開放し、利用者の利便性向上を図る。プールでは、夜区分に水中運動クラスを1レッスン増設。

【プール】

「サニックスブルース」をはじめとする競技団体等に、温水プールを活用した「アクティブレスト」を勧める活動を実施する。また、ウエルネスクラブ会員のみでなく、スイミングスクール受講生や一般利用者向けにスイムビデオの撮影を行う。

普段、水泳のみの利用者や、アクアビクス初心者を対象に、アクアビクスのイベントを実施し、スイミングスクール全体の活性化を行なう。

7月・8月のスイミングスクール休止期間に、1回ごとの参加費で参加できる「水中運動教室」、「初級水泳教室」、知的障がい者を対象とした「ペアペアチャレンジ」を実施する。新たな取組みとして、お手軽感覚で参加できる30分のプールレッスン「ちょいプール」を開催。プールレッスンの気軽な機会を提供することで、利用者増を目指す。

また、令和3年度中に、アクア（水中）ノルディックを実施する予定。

【スタジオ】

若年層をターゲットとして、日曜日に有料のスタジオレッスンを2本追加する。これにより、会員への誘導や、運動の継続を促進する。

スタジオ祝日イベント開催。ボクササイズや、ヨガ系の30～50歳代の女性限定のレッスンや、男性限定のレッスンを開催予定。

スタジオBで陸上運動の「わくわくクラブ」を増設予定。

また、スタジオレッスンの新たな取組みとして、30分単位の『ちょいスタ』を定期的実施する。気軽に参加できる内容とし、定期利用者の利用頻度向上を目指す。

【屋外】

ランニング初心者や愛好家を対象とした、ランニング練習会を年間10回実施予定。広報紙で広く告知を行ない、アクアドーム利用者以外の受け入れも行う。

宗像市商工観光課が発行している「宗像・岡垣登山マップ」を活用した登山イベントを行う。また、身近な運動の紹介としてノルディックウォーキングイベントを実施する。

芝生広場を活用した、グラウンドゴルフ大会も開催する。

【その他】

日常、お店で購入している食品の手作り教室を開催。食育をベースに伝統知識の伝承や、健康づくり情報を提供し、地域の活性化を図る。また、手作りした食品の栄養面に関して、管理栄養士によるアドバイスを行う。更に、作業中や終了時に、運動指導員が健康づくりアドバイスやストレッチ等を行なう。簡易的かつ実践しやすいシステムで栄養分析を行なう。アクアドームの特徴を活かし、他施設との違いを出す。現在実施している「柚子胡椒づくり」は、人気のため、実施回数を増やすことを検討する。

新たな試みとして、イベントホールを活用し100人規模のスタジオレッスンを定期的で開催する。イベントホールの広いスペースを活かし、ソーシャルディスタンスをとりながらヨガやエアロビクスなどを開催する。

子どもたちや、子育て世代の親子を対象とした事業展開を行なう。子どもたちには、子どもの神経系発達の為の運動を提供する。また保護者には、身体的な変化、アンケート調査などで運動前後の比較を統計的に処理し、運動の効果を検証する。

⑨ 公3 「健康増進事業（テニスコート・パットゴルフ）」

【テニスコート】

新型コロナウイルス感染症の影響を受けにくい屋外施設という特性を活かし、安定的な利用者数を目指す。

経年劣化によるコートの傷みが目立つようになってきている。定期的なメンテナンスによって、気持ちよくプレーできる環境を整える。

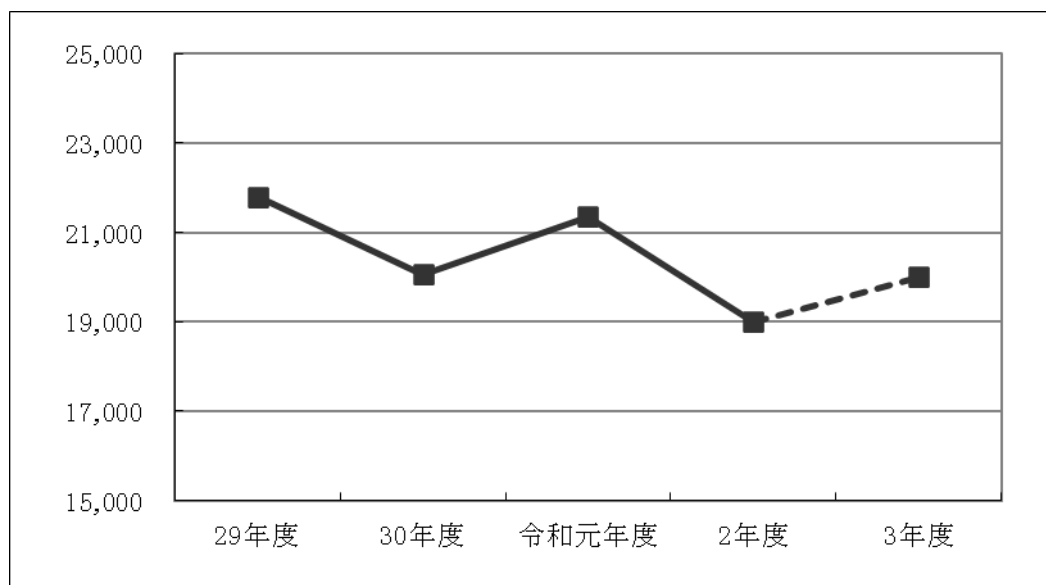
また、予約受付方法について現状、電話または来館受付のみとしているが、インターネットを利用した予約受付の方法を検討し、より利用しやすく選ばれるテニスコートになるように進化させていく。

【 数値目標 】

テニスコート利用者数の推移

※令和2年度は見込値、3年度は目標値

	29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度
利用者数（人）	21,797	20,068	21,348	19,000	20,000
対前年比	102.0%	92.1%	106.4%	89.0%	105.3%



【パットゴルフ】

令和2年度のパットゴルフ場は、4月9日～5月16日まで約1ヶ月間の休場にも関わらず、新型コロナウイルス感染症に影響されにくい屋外施設ということもあり、好調に推移した。

令和3年度は、好調な状況を維持するためにリピーターを確保しつつ、各地域のコミュニティセンターへの告知などの広報活動をすることで、利用者数の増加を図りたい。

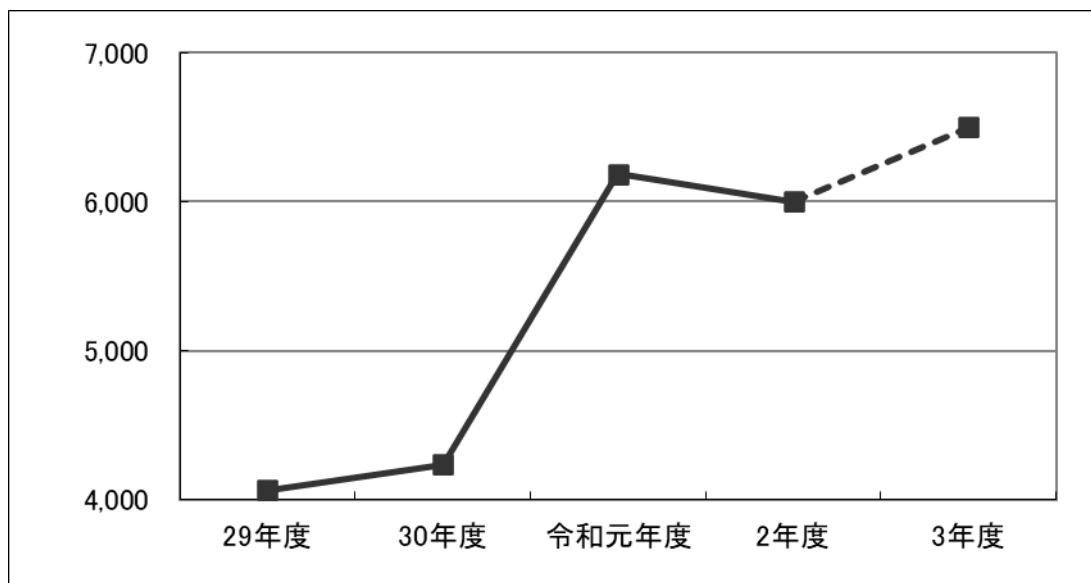
また夏季は、パットゴルフ入り口の軒先にミストシャワーと椅子を設置し、わんぱく広場ご利用の方への熱中症対策としての休憩利用など、パットゴルフ場の付加価値を上げていく。

【 数値目標 】

パットゴルフ利用者数の推移

※令和2年度は見込値、3年度は目標値

	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度	3年度
利用者数（人）	4,063	4,235	6,188	6,000	6,500
対前年比	97.9%	104.2%	146.1%	97.0%	108.3%



(3) 法人運営

【組織・運営体制】

令和2年度は臨時休館や時短営業に伴い、出勤体制の変更調整を複数回行なった。急激に社会環境が変化し、雇用環境を取り巻く状況も大きく変化している。安定した組織運営を続けていくために、中長期的な人事計画を策定し、環境に対応し随時更新する。人材は組織にとって重要な資産であることから、人材の育成・確保を目的とした外部研修を積極的に活用し、職員全員の能力を向上させるとともに、組織力の強化を図る。

宗像ユリックス職員数（人）

（令和3.4.1時点）

職 種	総務部	文化事業部	施設営業部	計
中 核	3	1	1	5
専 任	1	2	1	4
嘱 託	4	2	6	12
臨時A	4	1	4	9
臨時B	0	3	4	7
計	12	9	16	37

※事務局長は、総務部中核に計上

【財政運営】

令和2年度は、約3ヶ月間に及ぶ休館や営業時間短縮、入場制限に加え、社会の自粛ムードの影響により、施設利用者数が過去例をみないほど大幅に減少した。厳しい財政運営を強いられたが、市とのリスク分担により、損失補填をいただき、乗り越えることができていたものの、社会情勢の急激な変化に対し、迅速な対応が求められる環境が続くと思われる。令和3年度は、大きく変化した社会情勢に則した、新たな事業収入の開発や事業規模・内容の見直しに取り組み、財政安定化に向けた収支改善に取り組んでいく。

指定管理費の推移

予算ベース 年額	第一期 指定管理費	第二期 指定管理費	第三期 指定管理費	第四期 指定管理費
管理運営コスト	357,308,000	346,083,000	368,828,000	*367,328,000
対前期増減額	—	△11,225,000	22,745,000	△1,500,000

*令和元年の消費増税、令和2年のリスク補填は加味していない